九州工業大学 × ＵＲ

沖台二丁目団地 外壁色彩デザイン 2022-2023

九州工業大学×ＵＲ
連携プロジェクト

ＵＲ都市機構は所有する北九州地区のＵＲ賃貸住宅において、これまで様々な改善をしてきましたが、新しい目線での改善を模索していたところ、ストックの高経年化や高齢化といったＵＲ賃貸住宅の課題が、建築や都市空間デザインなどに取り組む九州工業大学大学院工学府（建築社会工学専攻）の学生に対する教育テーマと合致し、この課題の解消について教育の現場で取り組むこととなりました。

九州工業大学が戸畑とゆかりが深いことから、学生に対しより実践的な教育を行うフィールドとして沖台二丁目団地を選定し、九州工業大学とＵＲは、学生の提案を取り入れながら団地及び地域の魅力を高めていくプロジェクトを進めています。

沖台二丁目団地
外壁色彩デザインについて

ＵＲでは安全安心にお住まいいただけるよう計画的に団地の外壁塗装（修繕）を実施しています。戸畑駅にも近く利便性の高い沖台二丁目団地は、管理開始から40年近く経過し、外壁塗装を検討するタイミングであったことから、本プロジェクトの中で学生のアイディアによって、団地や地域の活性化につながるような、外壁色彩デザインの検討を開始しました。

周辺環境や既存の良さを活かしつつ、学生のフレッシュな感性を取り入れることで、沖台二丁目団地の魅力を高めます。

外壁色彩デザイン検討のあゆみ

現地調査

色彩班　グループワーク

中間発表

最終プレゼンテーション

2022.8月

2023.9月

外壁色彩勉強会

コンセプトづくり

サイン班　グループワーク

１年かけて完成へ

2022年８月、外壁色彩デザインの勉強会からスタートし、地域のことを調べ、現地調査を行い、デザインの基本方針について検討を重ね、学生が実現させたいイメージを全員で共有するためコンセプトを策定しました。

決定したコンセプトを具体のデザインに仕上げていくため、色彩班とサイン班に分かれてワークショップ形式での作業を重ね、色彩計画案とサイン計画案のすり合わせ作業を何度も行いました。

グループワークのため、プロジェクトメンバー全員が納得できるものに仕上がるまで苦労も多かったものの、専門家の講師からノウハウも得ながら最後まで全員で意見をまとめ上げ、外壁色彩デザインが完成しました。

コンセプトづくり

地域について調べ、現地で感じたことから、基本方針を設定しました

地域について調べたこと

○戸畑エリアの特徴

・海に近く風が強いので凧揚げが盛んな地域
・戸畑生まれの「孫次凧」は福岡県知事指定民工芸品

○団地周辺の立地環境

・団地内にも公園があり、近隣にも公園や緑が多い
・徒歩10分以内に小中学校や図書館などの公共施設がある
・団地の西側に天籟寺川が流れている

○団地の色彩

・暖色系が多い
・類似色で構成されている

団地のベース色

現地調査で感じたこと

・自然豊かで季節が感じられる
・団地のあたたかい雰囲気がよい
・近くには学校や図書館もあって子育てしやすそう
・沖台と言う地名の由来や近くの天籟寺川の名前など
「風と水」やその「流れ」が感じられる
・風と言えば地元の伝統工芸品には「孫次凧」がある
・古いから傷みや汚れもあり暗い印象もある
・子供たちの賑わいが少ない

→若い世代にも住んでほしい

外壁色彩デザインの基本方針

・メインターゲットは、若い子育て世代の家族
・若い世代を意識した新しいデザイン
・沖台の形を新しく表現するサイン計画
・木洩れ日や家族団らんを感じるあたたかな色彩
・「風と水の流れ」が感じられるデザイン
・地元の伝統工芸品「孫次凧」カラーの活用

コンセプトづくり

外壁色彩デザインの基本方針から議論を重ね、コンセプトを決定しました

コンセプト

若い子育て世代に向けて「新しい風を取り込む自然に調和した団地」を創出

プロジェクトメンバーの感想

○様々な魅力がある地域だからこそ、何に焦点を当てどの層をターゲットにするべきか、絞るのが大変でした。

○最初はアバウトでバラバラだったイメージが、話し合いを重ねるごとに明確になっていきました。

○デザインの基本方針を設定したことでイメージは共有できたものの、イメージを言葉にすることに苦労しました。また、言語化できても伝わるように組み合わせることも大変でした。

○言葉の使い方が難しく、良い言葉だと思ってもこちらの思いとは違った印象を与える可能性があるとわかり、言葉の選択に苦労しました。

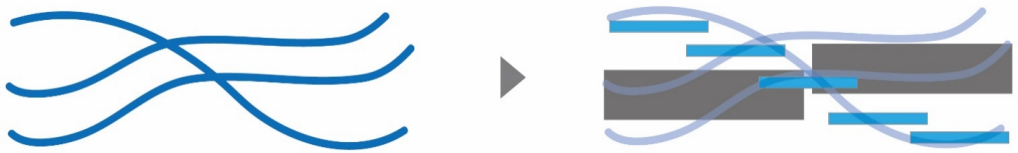
○11人の意見を一つの言葉にまとめるのは、とても大変でしたが、様々な言葉をたくさん出し合い議論を重ねた上で、納得のいくコンセプトができました。

色彩計画の検討

コンセプトから「風と水の流れ」をイメージした塗分けデザインを表現しました

塗分けデザインで表現したいこと

「風と水の流れ」



・大きな流れと小さな流れが交差

・ゆるやかな流れと急な流れ

・一面の中で流れに差をつけて変化を表現

▽

連続する住棟全体でひとつの流れを表現

二村　翔

色の選定とその理由や、流れの表現方法だけでなく、明度や彩度等の微調整や、サインとの調和や顔となる反転面の設定も大変でした。5棟をまとまりで考えたられたことや、孫次凧をワンポイントに採用できてよかったです。

中野　純希

屋内・屋外で見る色、退色なども考慮して色を選ぶことは難しく、何年も建ち続けるものなので、印象が変わらずあり続けるようにするのは難しいと感じました。色の印象の与え方など多くのノウハウを学ぶことができました。

真鍋　沙綺

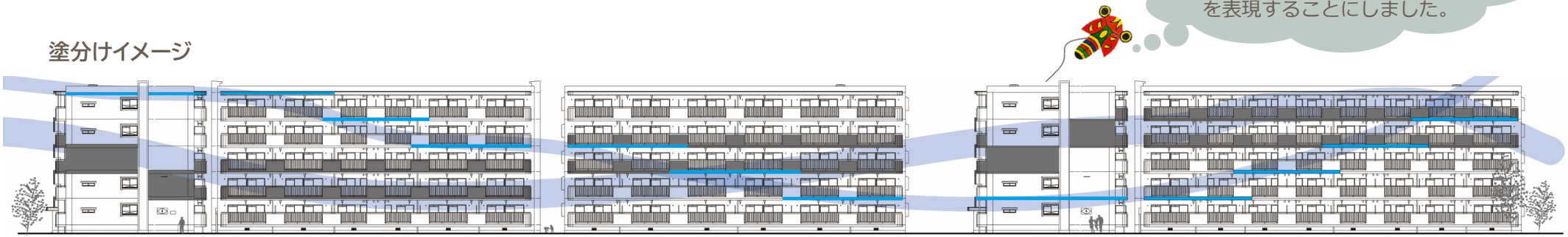
実際に塗装することを考慮して色の組み合わせを考えたり、流れを表現するデザインを細部まで考えたりすることが大変でした。

全く知らなかった色彩に関する知識を得ながらプロジェクトに取り組めてよかったです。

孫次凧の活かし方

孫次凧カラーはほんの少し使うことで、風にのって揚がる凧を表現することにしました。

塗分けイメージ



色彩計画の検討

デザインキーワードを表現できるカラーを選定しました

色彩で表現したいこと

温かみや賑わいのある暖色系の街並みに、風と水が流れる新しい沖台二丁目を表現

カラー選定

・ベースカラーは暖色系のアイボリーで統一し、団地全体のまとまり感を創出
・大きな流れにポイントカラーを、小さな流れにアクセントカラーを配色
・孫次凧カラーは、ほんの少量を使うことで、風にのって揚がる凧を表現

ポイントカラー（大きな流れ）	アクセントカラー（小さな流れ）	ベースカラー（全体を統一）	孫次凧カラー（小量のアクセント）
木の葉の影	風と水の流れ	温かみのあるベース	風にのる凧

言葉で表したコンセプトを色と塗り方で表現することが難しかったです。組み合わせる色が一つ違うだけでも、印象が全く異なるものになるということを、自分の目で学ぶことができてよかったです。

山邊　幸歩

自分たちの意図を、色とデザインの表現に繋がるように言語化していくことが大変でした。
色彩の専門家から、実践的な知識をたくさん教えてもらいながら、案をより良くできました。

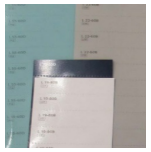
金丸　虹花

サンプルを屋内･外で見た場合と、パソコン上で見た場合の印象が違い、細かな色合いの選定が難しかったです。
色彩のレクチャーで学んだことを活かして、班で話し合いながらコンセプトに沿った色の組み合わせや塗分けを提案できました。

松本　倫太朗

案の絞込み

中間発表前に２案まで絞り、どちらも捨てがたい案でしたが、最後は中間発表での意見を参考に、A案に決めました。

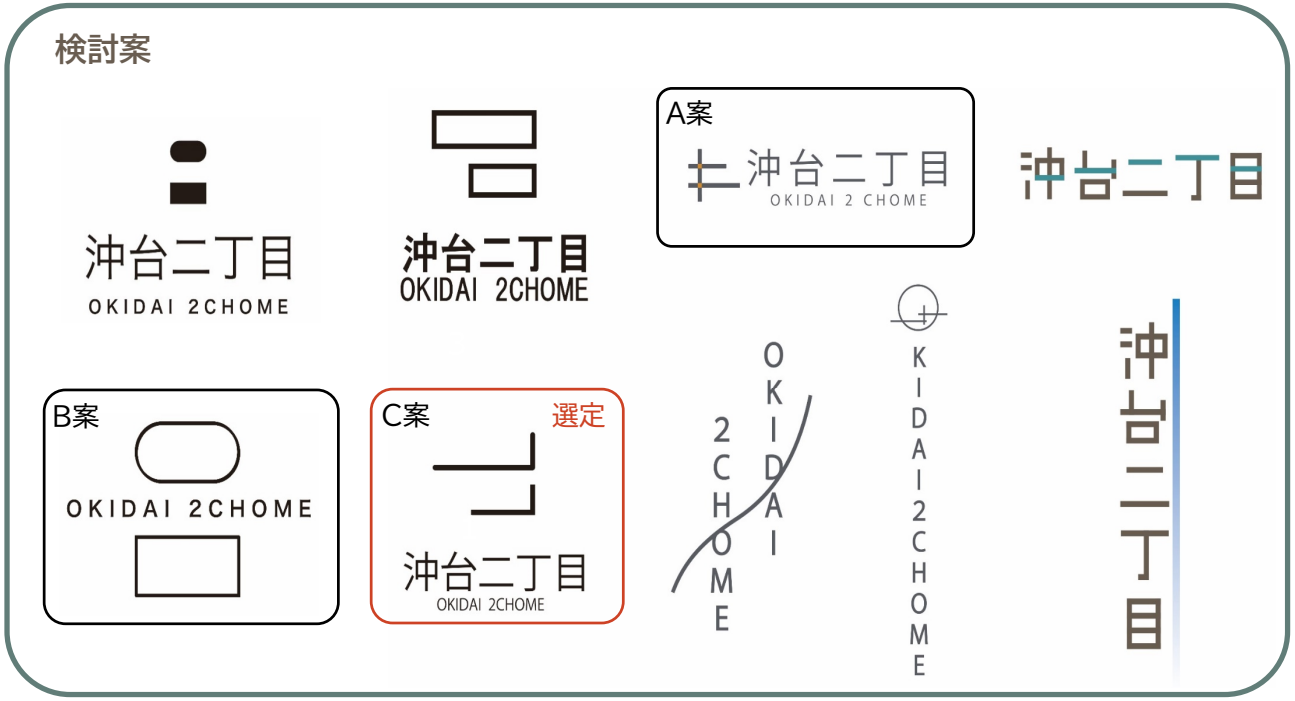


A案：風と水

B案：木洩れ日

サイン計画の検討

様々なアイディアを出し検討した結果、住棟配置とエントランスの形状を採用しました



シンプルでわかりやすく沖台二丁目団地らしさを表現することや、フォントや配置を決めることも大変でした。

今まであまり勉強したことのないサインについて学ぶことができ、サインの面白さや可能性について知ることができました。

髙田　拓実

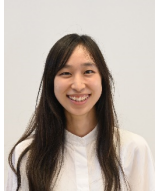
デザイン性と機能性の両方向からロゴというものを考えるのが、難しかったです。

グループで作業をしたことで、他のメンバーの考え方にも触れることができたことは、非常に勉強になりました。

楢﨑　有祐

言葉なしで人に伝わるサインにするにはどうしたら良いのか、非常に悩みました。

今まで意識しなかったサインが気になるようになり、サインだけでなく様々な視点で建物や町全体を見るようになったことは、自分の成長にもつながりました。



高丘　理子

サイン案の作成

「流れ」や色彩班の塗分けデザイン、住棟配置の形など、さまざまなものをモチーフにしつつ、各自サイン案を作成しました。

3案までサイン班で絞り込み、最後は先生やUR職員も含めた全員による投票で決定し、ようやく1案に絞ることができました。

１案に絞り込んだ後も、専門家の講師から実際にサインを設置することを踏まえたアドバイスをもらいながら、全員で意見を出し合いブラッシュアップを進めていきました。

サイン計画の検討

採用した案をブラッシュアップし、サインが完成しました

デザインの意図

3～5号棟丸みのあるエントランス

1・2号棟の角ばったエントランス

北側に3～5号棟、南側に1・2号棟がそれぞれL字型に並ぶ団地の配置

サインで何を表現するべきなのかを考えることが大変でした。

団地の特徴を様々な視点でみることで、いろいろな形や色につながっていったことがよかったです。

稲葉　侑太郎

色彩班とのすり合わせが大変でした。

サインの専門家から学び、リアルな団地で実践できたのは、貴重な経験となり自分の成長につながりました。「団地の色彩･サイン」という点でもリアルに考えられてよかったです。

川原田　茉子

サインの特徴

シンボルは、住棟配置に現れた形と、2種類のエントランスの形を、掛け合わせたデザインにしました。

シンボルデザインに合わせて、団地名称のフォントは、ゴシック系にしました。

最終案

沖台二丁目

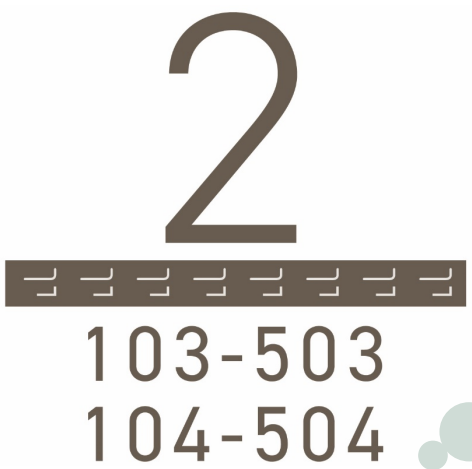
OKIDAI2CHOME

外壁色彩デザイン

色彩計画とサイン計画を何度もすり合わせ、外壁色彩デザインが完成しました

サインのエントランス展開

決定したサインをエントランスデザインにも活用しました

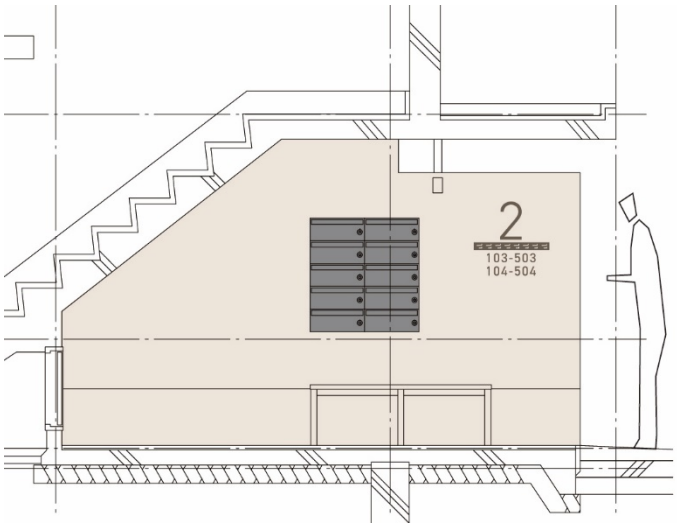


郵便受け側のデザイン

郵便受け側は、表示する情報として、住棟番号と住戸番号が明確になるようにしました。

また、ロゴマークをアンダーラインとしてデザインしました。

取り換える郵便受けは、サインの色彩とのバランスから、黒を選択しました。

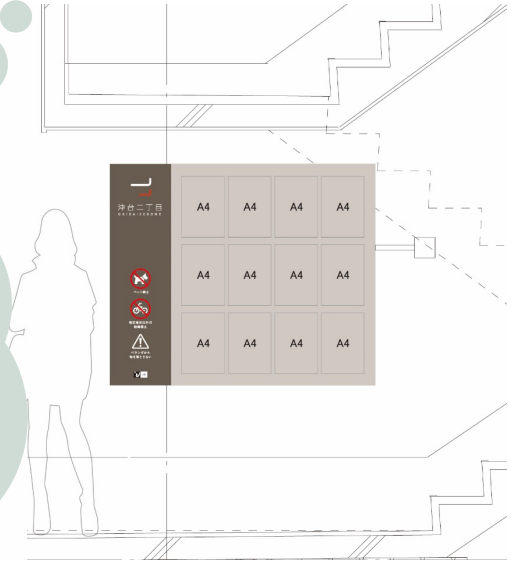


郵便受け側

掲示板のデザイン

掲示板は画鋲とシールに対応できるよう、アルミ製のパンチング板にし、ロゴマークをパンチングパターンに採用しました。

また、掲示板にはURのロゴや注意喚起サインなどの情報もあり、それらと団地名称をバランスよく配置しデザインを決めました。



掲示板側

完成イメージ　１号棟側

現況写真

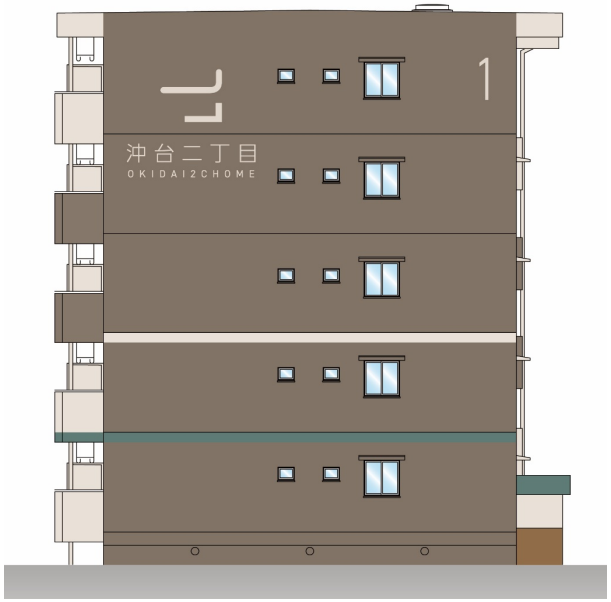
沖台二丁目の顔となる1号棟

現況の壁面サインは、沖台二丁目のランドマークにもなっているので、現況を引継ぐ形で、壁面サインは１号棟に設置することにしました。

また、壁面のベースカラーをポイントカラーに反転させることで、沖台二丁目の顔としての存在感を高めるようにしました。

サインの位置と色彩やラインのバランスなど、色彩班とサイン班で最終調整を行い、完成イメージができました。

1号棟　道路面のサインと色彩



完成イメージ

完成イメージ　３号棟側

現況写真

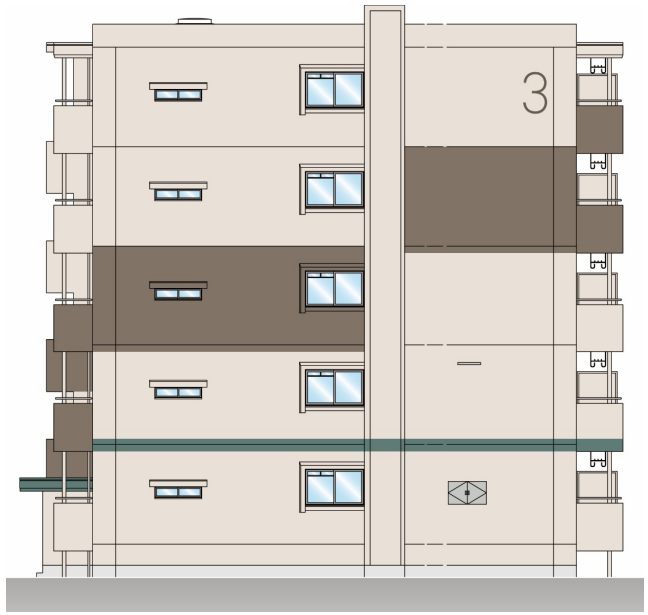
通りに面して連なる3号棟から5号棟

大通りに面しており、交差点からつながる3号棟から5号棟にかけては、連続性が最も良く見えるところです。

この連続性を活かして、「流れ」のデザインを決めました。

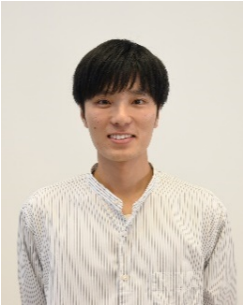
また、3号棟は妻面の形をうまく活かし、「流れ」を切り替えることで動きを出し、交差点からの風景が単調にならないようにしています。

3号棟　道路面の棟番号と色彩



完成イメージ

プロジェクトメンバー



二村 翔　［修士2年］
プロの方々からアドバイスを頂くという貴重な経験ができてよかったです。11人全員が納得できる、沖台二丁目団地に住みたいと思えるデザインが完成して嬉しかったです。

山邉 幸歩　［修士2年］
地域の魅力の何に焦点を当てどの層をターゲットにすべきか絞るのが大変でした。最初はなかなか思い描いていたものにすることができず、苦悩しましたが、それらが徐々に形になっていく様子を、作業しながら間近で実感することができて嬉しかったです。

中野 純希　［修士1年］
みんなで話し合うことで、どのようにしたいのかチームの中で方向性を明確にすることができました。実際に立っている建物に対して新たな印象を与える色彩にするために多くのことを学び、貴重な経験を得ることができたと思います。

松本 倫太朗　［学部4年］
今回のプロジェクトを通して、団地に住む人だけでなく、それをいつも目にする地域の人にどのような印象を与えるかを考えるうえで、色彩やサインを計画することの重要性を再認識することができ、とても面白かったです。

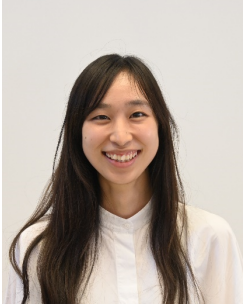
金丸 虹花　［学部4年］
最初はアバウトでばらばらだったイメージが、話し合いをかさねるごとに明確にすることができました。また、以前から興味のあった色彩の分野に関われて、とても嬉しかったです。貴重な経験になりました。ありがとうございました。

真鍋 沙綺　［学部4年］
大学での設計課題などでは絶対にわからない、施工する上で重要なことを学びながら、プロジェクトの一員として一つの提案を作り上げることが出来てよかったです。

色彩班

サイン班

髙田 拓実　［修士2年］
全体を通して学ぶことが多く、サインはもちろん、色彩、資料のつくり方、プレゼンの仕方など、今後に繋がる大切なことを学びました。ありがとうございました。



高丘 理子　［修士2年］
一つの団地について、メンバー全員で考えていくにあたり、専門の方をお呼びして、分担しながら時には連携を取りながら、プロジェクトを進めていけた点がとても良い経験になりました。今回だけでなく、今後何かを考えていく上で、役に立つ方法を学べたような気がします。

楢﨑 有祐　［修士1年］
サイン班として参加して、プロの方をはじめ先生方に指導して頂いたことが、一番の収穫だったと思います。また、それを踏まえて自分なりのアウトプットの仕方にも発見があったので、建築設計だけでなく他の分野のデザインにも、関わることが重要だなと、改めて感じました。

川原田 茉子　［修士1年］
プロジェクトを進める中で新しい知識を身に着け、自分なりの発見と学びが多くありました。また、実際に形になるからこそ課題も多く、“仕事”の大変さを知る機会になりました。多くの方の支えを受け、悩みつつも楽しく活動ができ参加してよかったです。ありがとうございました。

稲葉 侑太郎　［学部4年］
今年からメンバーとして加わり、普段学ばないことを、作業や発表を通して学ぶことができ、とても楽しく、新鮮な経験になりました。

関係者のみなさんから一言

大学院工学研究院
德田 光弘 准教授

確かな答えがない中で、最も良いと言える答えを自らの試行錯誤と判断から見つけ出していく。学生たちは、今回の色彩計画とサイン計画を通じて、デザインの楽しさと難しさ、醍醐味の一端をじんわりと味わえたように感じています。

色彩計画家
松山 祐子（色彩計画）

創造性溢れる楽しいWSでした。学生の皆様から生まれた様々なアイデアがどんどん改善されていく様は、思わぬ気づきもあり貴重な経験になりました。建物や身の回りの色について考える一助となったなら嬉しく思います。

株式会社 URリンケージ 九州支社
(左から)山根仁、小川敏枝

アイデアもすばらしいと思いましたが、より良いものへと全員で議論を尽くす過程も、すばらしいと感じました。この経験が皆さんの今後の糧となれば幸いです。ものづくりを一緒に体験できて楽しかったです。ありがとうございました。

大学院工学研究院
石塚 直登 助教

色彩計画は、私も普段はあまり触ることのない分野でしたので、学生と共に学ぶことができました。サインも団地の特徴をとらえた良いものができあがったと思います。URをはじめ関係者の皆さんに、機会を頂けたこと、改めて感謝いたします！

株式会社 マイサ　代表取締役
加藤 美香(サイン計画)

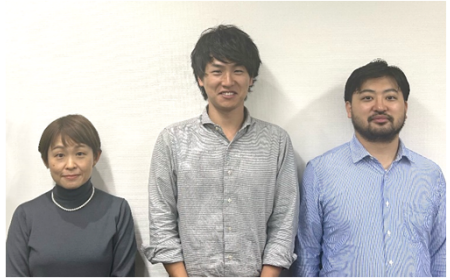
サイン班は、「情報内容」「表現様式」「空間上の位置」を検討し、創作し、最後には色彩計画との融合まで、難題を見事にクリアしました。ノビシロしかない皆さんと出会えたことに感謝です。

UR都市機構 九州支社 住宅経営部
(左から)江崎 徳幸 部長、北川 雄司 次長

大変すばらしい色彩及びサイン計画を提案していただき、学生の皆さんをはじめ徳田先生や石塚先生、関係者の皆様、本当にありがとうございました。来年度から沖台二丁目団地の外壁修繕を実施することになりますが、完成するのが楽しみです。

UR都市機構 九州支社 住宅経営部
プロモーション担当
(左から)大川内将至郎、入江冴香

楽しそうに、時には悩ましそうに議論を重ねた学生さんたちの素晴らしい提案によって、沖台二丁目団地がより一層、魅力的になっていくのが楽しみです。関係者のみなさま、本当にありがとうございました。



UR都市機構 九州支社 住宅経営部
外壁デザイン担当
(左から)宇井えりか、小柳徳政、髙岡哲之

団地及び周辺地域の特徴をよく読み解き、沖台二丁目団地らしい色彩及びサイン計画を提案頂けたと感じています。学生の素晴らしい提案により団地が生まれ変わる日を今から楽しみにしています。

九州工業大学 × ＵＲ　連携プロジェクト

プロジェクトについてはこちらから↓
https://www.ur-net.go.jp/kyusyu/chintai/kyutech.html

発行　2024年2月

※本冊子に掲載しているデザインは計画案です。実際の外壁塗装やサインとは異なる場合があります。